

## リタイア後

のセカンド  
ライフは、

自ら能動的には何もしないという  
安易な方向に流れ、家の中でゴロ  
ゴロしているだけの怠惰で無気力  
な日々になってしまうケースが多  
いようです。しかし、せっかく会  
社や仕事の束縛から解放されて  
“サンデー毎日”の自由な身にな  
ったのに、それではもったいない。  
好奇心を広げ、現役時代はやりた  
くてもできなかった

こともや未経験の

## ⑩

くかく  
生、しにし  
人楽と楽

ことに、どんな  
挑戦すべきだと思  
います。そこから  
人生の新たな楽し  
みが生まれてくる  
のです。

セカンドライフの一番の“ご馳  
走”は、コミュニティとそこでの  
仲間です。ゴルフ、テニス、卓球、  
音楽、将棋、囲碁のように同好の  
士が不可欠な趣味はもとより、釣  
り、ジョギング、水泳、盆栽など  
1人で可能なものでも、仲間がい  
れば楽しさは何倍にも膨らみます。  
ただし、いま住んでいる所で新  
しいことを始めようとしても、都  
会の住宅地にはコミュニティがな



いので、新しい仲間を見つけるの  
は至難の業です。近所のスポー  
ズクラブやカルチャーセンターに通  
うぐらいしか手立てがありません。  
だから私は、新しい仲間が見つ  
かる新しいコミュニティに移り  
住むことをお勧めしているのです。  
新しいコミュニティとは、リタイ  
アした元気なシニアのためのアク  
ティブシニアタウン（リタイアメ  
ント・コミュニティ）です。  
アクティブシニアタウンのメリ  
ットは、世代的に近い人々が集ま  
っているの、同じ趣味嗜好の仲  
間、気の合う友人が見つかりやす  
いことです。まだ日本に本格的な  
アクティブシニアタウンはほとん

# アクティブシニアタウンで 新たな仲間と出会い、 新たなコミュニティで 充実したセカンドライフを

大前氏はこれまで9回にわたり、  
コレカラ世代が悔いのないセカンドライフを  
手に入れる方法を具体的に提案してきた。  
最終回はリタイアメント・コミュニティとして  
アクティブシニアタウンが持つ意義を考える。

どありませんが、アメリカでは  
約50年前から温暖なリゾート地に  
続々と誕生しています。

たとえば、南カリフォルニアの  
ラグナウッズ市にあるラグナウツ  
ズビレッジでは、約1万8000  
人の元気なシニアが暮らしていま  
す。コミュニティ内には約270  
ものアクティブティ（サークル活  
動、クラブ活動、カルチャー教室、  
趣味の集いなど）があります。ア  
クティブティはすべて住民が揭示  
板などで仲間を募って自主運営し  
ています。住民はたいがい複数の  
アクティブティに参加し、生き生  
きとした毎日を送っています。  
今後は日本でもアクティブシニ

アタウンを造るべきだと思います。  
成功事例が一つ出ればブーム  
は一気に加速するでしょう。そし  
て、その場合に重要なことは「規  
模感」です。コミュニティの規模  
はできるだけ大きいほうがいい。  
最低でも5000人は必要でしょう。  
なぜならコミュニティの規模が大  
きいほど多種多様なクラブ活動が  
生まれ、同好の士や気の合う仲間  
と出会う確率が高まるからです。  
コレカラ世代の皆さんには、ぜ  
ひアクティブシニアタウンへの移  
住をリタイア後の選択肢に加え、  
充実したセカンドライフを手に入  
れるための明確な青写真を描いて  
いただきたいと思います。



## 大前 研一

1943年福岡県生まれ。

ビジネス・ブレークスルー代表取締役。

ビジネス・ブレークスルー大学院大学学長などを務める。

『心理経済学』（講談社）、『サラリーマン「再起動」マニュアル』（小学館）などの著書で  
一貫して日本の改革と日本人のスキルアップを訴え続けている。